

## 2019 年度学習上の支援機器等教材活用評価研究事業

### 成果報告書

実施機関名（学校法人西軽井沢学園 サムエル幼稚園）

#### 1. 事業の概要

近年、ICT（Information and Communication Technology；情報通信技術）を含めた支援機器の発展に伴って、これまで実施困難であった教育上のさまざまな取組が可能となってきた。しかしながら、教育実践現場においてそれらが十分に活用されているとはいえず、まずはどのような事例や課題において、どのような支援機器教材が有用であるのか、多くの実践例を重ねていくことが必要である。また、幼児の日々の記録について、多くの幼児教育現場が教員の主観によるエピソード記述が中心となっているが、これらを可能な限り客観的な行動指標として収集し、教員や保護者との情報共有を行いながら、教育・支援の効果検証を行っていくシステムが必要である。あわせて、そのプロセスの自動化を図ることは教員の事務作業時間の負担軽減に繋がるであろう。教員の事務的時間の軽減により、日々の教材開発や計画の実行評価と見直し作業にかかる時間が増加し、より質の高い教育を提供できると考える。

そこで、サムエル幼稚園（以下、本園とする）では、上述の課題に取り組むために文部科学省「2019 年度学習上の支援機器等教材活用評価研究事業」を受託し、実施した。

#### 2. 事業の成果

- ① 行動指標を用いた実践：幼児教育現場での行動指標データ収集を行うに際して、記録表の作成・設置場所等の検討を行った。また、記録のためのシステム（マークシート方式等）を試作し、検討した。
- ② データの視覚化と共有システムの開発：データを視覚化し、日々の変動を確認しながら情報を共有するためのシステムを開発し・実装した。Googleスプレッドシートを用いて作成したグラフを用いて、ブログ形式でグラフデータと個人情報をつなげた。Googleスプレッドシートのファイル名等は個人が特定されないように記号化した。園内LANに接続されたPCやスマホ、タブレット等で教員や保護者がいつでも閲覧可能で、システム導入前と後では、グラフの更新と情報共有のための作業時間が6分の1（週当たり6時間から1時間）と大幅に削減された。
- ③ 支援機器等教材の活用：Visual Timer（アプリ「絵カードタイマー」を iPad で使用）を用いた実践を行った。朝や帰りのしたく場面、お弁当の場面においては、対象となる子供の、ベースライン（タイマー導入前）の測定値をもとに、目標時間を設定して、時間内に完了するとごほうびを提示した。また、集団随伴性を用いた介入として、自由あそび時間終了後の片付け場面でも導入し、効果がみられた。いずれも段階的に、目標設定時間をステップアップしていくことが可能となった。また、対象によって導入方法や条件変更時に工夫が必要であった。
- ④ 障害のない幼児・保護者の理解のための取り組み：本園では、インクルーシブ教育を実践している。今回の支援機器の導入において、障害のある子供たちだけでなく、特別な支援を必

要とする子供への支援方法が、いわゆる定型発達の子供への支援にも有効であることが確認できた。本園はインクルーシブ教育を実践しており、すべての子供に特別なニーズがあることを認め合い、それぞれの“とくべつ（特別）”を隠さず、共有するという新たな教育文化を創っている。

### 3. 今後の課題と対応

公教育において、取組とその効果についての情報開示は、より良い幼児教育の提供と改善を行う上で必須である。しかし、現状では本園のような取組は稀であり、その必要性や意義についての啓発からはじめなくてはならない。

また、データにもとづく教育支援方法の検証を行う際、幼児教育現場での正確かつ簡便な行動記録データの収集方法の開発が必要である。この点についても、さらなる検討が必要である。

### 4. 問い合わせ先

組織名：学校法人西軽井沢学園  
サムエル幼稚園